

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2972300129		
法人名	有限会社サンコーポレーション		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	奈良県宇陀市榛原萩原750番地		
自己評価作成日	令和4年4月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosvoCd=2972300129-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人Nネット
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階
訪問調査日	令和4年6月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひまわりは、近鉄榛原駅から徒歩7~8分で、宇陀市の中心部に立地している。施設の川向いには古事記ゆかりの墨坂神社の森が広がり、緑豊かで心和む風景に出会える。季節ごとの地元のお祭りやイベントなどにも参加したり、お花見や紅葉狩りに出かけたりしている。食事は新鮮な地元の高原野菜をふんだんに使った手作りの家庭料理を提供しており、利用者の楽しみの一つになっている。また、長年にわたり、感染症予防に努めてきたが、今般のコロナ対策として、リビングに業務用の空気清浄機等を設置した。利用者の皆様もマスクを着用していただき、安心安全な環境作りに努めている。アットホームな温かい雰囲気の中で、安心して生き生きと人生を送れるように、職員一同が丸となって支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、宇陀市の中心に位置し、駅から徒歩7・8分の所にある。歴史的に古い崇神天皇ゆかりの地であり、古事記に記された墨坂神社の川向にある。朱塗りの鳥居や建物が目の前に広がり、緑豊かで鳥のさえずりも聞こえ、心和む風景が広がっている。事業所の前身は開業医院であったので、地域になじみの関係ができています。施設内の所々に生花が飾られて、品よく季節感が感じられる。地域で採れる新鮮な野菜を使い、手作りの美味しい家庭料理を提供している。また、最期までその人らしく暮らしてもらえるよう支援しており、理念通り「明るい笑顔と心やさしい介護」を実践されている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設敷地内では開設以前は百年余り前から三代にわたり地元で開業医をしていた。地域医療に密着していたその精神を引継ぎ管理者が職員と共に理念を共有し、利用者の方々を支援している。	玄関を入ると、事業所の理念である「明るい笑顔と心やさしい介護」と「住み慣れた地域の家庭的な環境のもとで、その人らしく安心した生活をおくれるように支援する」という言葉を正面に掲げている。管理者自ら理念を実践すると共に職員と共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者は古くから地元の自治会に入り、多くの方々との交流もあり、自然な形で地域の一員としてつながっている。	自治会に加入している。地域の方々から野菜やお花を頂いたりする。メダカをもらい、鉢に入れ飼育している。コロナ禍で地域の行事はなく交流がないが、1日も早く終息し、以前のような交流を願っている。食材など必要な物は地元で買い、地域とのつきあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者が地元行事に参加したり見学する機会を通して、認知症の方に対する理解を深めたり支援の方法を見ていただいている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者のサービスの現状をきめ細かく報告している。その内容について、情報交換を行い各方面から、アドバイスをいただき、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は行政からの指導もあり、コロナ禍で中止している。会議を行っていないので特に議事録は作っておらず、開催時の参加者となる関係者からの意見聴取の機会もない。	コロナ禍で長らく運営推進会議が開催できないのは致し方ないが、できれば2か月に1回、参加予定者に書面で事業所の活動や行事予定等を報告すると共に、意見も頂けるよう返信用紙を同封するなどの取り組みがあれば良いと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者とは、事故報告書の提出等もやっている。オープンな形で事業所の実情やサービス内容について、適宜報告相談をしており、積極的に信頼、協力関係を築いている。	コロナ禍で市との必要なやり取りは、主に電話となっているが、必要な時には直接出向いている。市より在宅の困難事例の入居相談を受け入れたこともあり、市との信頼関係の構築が伺える。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で定期的に身体拘束をしないケアについて研修を行い、職員間で共有し実践している。身体拘束になる具体的な行為等を正しく理解したうえで、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに努めている。	身体拘束をしないケアに取り組み、身体拘束例はない。月1回、定期的に職員で勉強会を行っており、身体拘束をテーマとなることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が心にゆとりを持ち、利用者を家族の一員とと思ってケアできるようにしている。また、高齢者虐待についての勉強会を実施するとともに利用者家族からの情報収集のため「ご意見箱」を設置し虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加し、その内容を他の職員に伝達できるようその資料をいつでも閲覧できる書棚に置いている。個々の必要性については、利用者家族や当施設顧問弁護士、医療介護あんしんセンター等と相談し、制度を活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等については事前説明を十分に行い、利用者や家族の質問にもわかりやすく丁寧に説明し納得して頂いている。加えて、希望によりショートステイによりお試し入居も実施しており、本人や家族が十分納得した上で入居できるシステムとなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話などで聴取した意見や要望を、会議等の場で管理者や職員など第三者に表せるようにしている。また定期的に介護相談員の訪問もあり、得られた意見等を運営に反映させている。	コロナ禍でも面会してもらえよう、扉の上半分を透明ガラスに改修し、扉越しにゆっくり面会してもらっている。家族の面会時や電話での連絡時に意見を伺うようにしており、運営推進会議以外、コロナ前と変わりない対応ができています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が日常的に職員とコミュニケーションを取り、職員の意見や提案を聞いている。当施設で月一回の会議の場でも職員からの意見を聴取して運営に反映させている。	管理者は常日頃の職員とのコミュニケーションや月1回のスタッフ会議で、職員から意見聴取している。代表が管理者であり、職員の意見を業務に速く反映させることができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員との協働を通して職員個々の努力、実績、勤務状況を把握している。常日頃より職員との意見交換を欠かさず、各自がそれぞれの課題を克服して向上できる職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は常日頃より職員とともにケアを行い、オン・ザ・ジョブで必要な指導を行っている。さらに職場内研修として年間計画に基づき月一回の勉強会を実施している。また、年度初めに各種研修会を案内し、積極的に参加しやすいよう費用を事業所負担、勤務扱いとし、職場外研修を奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム協会に入会しており、相互訪問の活動を通じて情報交換を行ったり勉強会に参加したりしている。また、市内の医療・介護連携シンポジウムにも参加し、多職種との連携を深めサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、本人との面談で本人の気持ちや要望等を十分傾聴し、本人との信頼関係を構築することによって安心してもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族との面談で家族としての要望や不安等を十分傾聴し、家族との信頼関係を構築するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に利用者と家族から、できるだけ多くの意見や要望を聞き取り、直近の支援を見極めた上でさらに幅広いサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を家族の一員として温かく接しており、その関係の中で、利用者を人生の先輩として学ばせてもらうことも多い。利用者と職員がお互い支え合いながら暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	機会あるごとに家族には利用者の状況を報告し、家族と利用者との面会時には職員が同席して情報共有するなど、施設と家族とが一体となって利用者を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会制限もあるが、希望に応じて玄関内部の透明ガラス越しで面会をしてもらっている。また、電話等で対応をしたりして馴染みの人との関係が途切れぬように支援している。	面会は、コロナ禍であっても、ガラス戸越しで1時間でも可能である。電話の取り次ぎも行っており、馴染みの人との関係が継続できるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調が許す限り、皆でリビングの円卓で過ごし、お互いに声掛けやコミュニケーションを取りながら和やかにレクリエーションやリハビリ体操等をしてもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在該当者はいないが、過去には退所して家に戻られた後も施設のイベントに参加してもらったり、逆に家の近くを通りかかった時には立ち寄らせて頂いたりして施設との関係が断ち切れないようにした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の心に寄り添いながらコミュニケーションをとり、信頼関係を築くようにしている。そのうえで本人の思いや希望意向を把握し、当施設でできる限り本人の意向に沿うように支援している。	利用開始時に、ホーム独自のアセスメントシートで病歴や心身機能だけでなく、生活歴、趣味趣向も聞き取っている。入居後は、食べたい物などを聴いている。また、診療所への受診の車中での言動から、ドライブのニーズなどを把握した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始にあたり当施設独自のアセスメントシートを活用し、ご家族から今までの生活環境等について充分に聞き取りを行い把握している。また、他施設からの入所者については、介護サマリー等にて経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は日々の介護の中で利用者本人をよく観察し、心身状態や残存能力等の現状について職員間で意見交換し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族から意見を聞き、職員からの毎月のモニタリング結果を含め、本人、家族、職員や関係者と話し合いを行っている。それらをもとに現状に即した介護計画書の作成を行っている。	モニタリングを毎月行い、介護計画の定期的更新は半年に1回行っている。毎月のスタッフ会議で、個々のサービス内容を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、気づきを介護日誌に記入し、職員間で情報共有して介護計画の見直しに役立てている。また、次の介護者に特に引き継がなければならない注意事項については、申し送りノートにより徹底を期している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに対応できるように、理容、マッサージ等を取り入れ、場合によっては訪問歯科、訪問看護、訪問リハビリ等も利用し、柔軟な支援、多機能なサービスを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りやイベント等に積極的に参加するとともに地元のボランティアによる詩吟・踊り等の文化活動を取り入れ、利用者が安全で心豊かに楽しく暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月一回かかりつけ医及び皮膚科の医師による訪問診療をもらっている。受診の際は、本人及び家族の希望を十分に聞いたうえで、適切な医療を受けてもらっている。かかりつけ医とは旧高橋医院の頃からの旧知の仲であり信頼関係を構築している。	事業所の協力医(内科)が月1回訪問診療を行い、緊急時の対応も可能である。皮膚科医が、月1回の訪問している。看護師が週1回勤務し、利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者は日常的に職場内の看護師に情報交換をして適切なケアの仕方を相談している。必要に応じて訪問看護ステーションにも相談を行い、受診や訪問看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から医療関係者との関係を密にし、緊急時には入院できる病院を複数確保している。入院した場合は、見舞いに訪れ、病状経過や治療方針等について病院関係者と情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの方針を本人や家族等と十分に話し合い、内容については職員と共有して取り組んでいる。重度化した場合には、再度、利用者家族、医師、看護師、介護職員、訪問看護師等を交え、本人の希望に沿った方針を共有し、チームで支援に取り組んでいる。	医師、訪問看護師の協力で看取り体制を確立し、看取りを行っている。病院で最期を送られるより、ホームでの看取りの方が、その方にとってより良いのではないかと提案ができる長年の経験と技術を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて「事故・緊急時対応マニュアル」や「応急手当のポイント」を作成し、事故発生時に迅速な対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は消防署に計画書を提出した上で、春と秋の年二回避難方法等を自主訓練として行っている。管理者は自治会員であり、地域との協力体制も築いている。また災害時に備え非常時の飲料水、非常食も備蓄している。	避難訓練を夜間想定も含め、年2回実施している。緊急時、自治会へも連絡が入るようになっている。備蓄用に飲料水、カップラーメン、乾パンなどを完備している。飲料可能な井戸がある。水害時は、併設の有料老人ホームの2階へ上がることができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の気持ちに寄り添いながら、常に尊厳を心がけている。何か失敗があってもプライバシーを損ねないようにさりげなく声掛けをし、落ち着いて対応するようにしている。また居室の入り口にドアはあるがのれんをかけ、居室が直接見えない等の配慮をしている。	利用者の呼名は、苗字「さん」付けをしている。居室入り口に、のれんを掛けプライバシーに配慮している。トイレ介助は、必ずトイレの扉を閉めて行き、希望があれば同性介助も行っている。パット交換は、背面より介助するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者の目線で声掛けを行い、思いや希望を言えるように配慮している。日々の献立やレクリエーション等についても利用者の希望を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課を基本とするものの、一人ひとりのライフスタイルやペースを尊重し、またその日の体調・希望に沿った対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、理容師に散髪に来所してもらっている。男性には髭剃りを促したり、女性にはその日の衣服を自分で選んだり化粧をしたりしてもらい、その人らしいおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者全員がお互いの顔が見える大きなテーブルを囲んで食事を楽しんでいる。当施設は手作りの食事に最も力を入れている。地元の新鮮な季節の食材を取り入れたメニュー作りや、調理の手伝い、食後の片付けも利用者と共に楽しみながら行っている。	食事は、地域で採れる新鮮な野菜を使い、手作りの美味しい家庭料理を提供しており、利用者の楽しみになっている。利用者の希望で、お寿司の盛り合わせを買って来たこともある。誕生日には、名前入りケーキを用意したりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1時間毎に水分補給を促している。新鮮な多くの素材を使っの献立を軸としているおり、食事摂取量が少ない利用者には栄養缶等で補足し、一人ひとりの状況に応じて栄養バランスのとれた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがい、入歯洗浄など個々に応じた口腔ケアを実施し、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握して、おむつの使用を減らし、失敗を少なくしている。歩行リハビリを兼ねたトイレ誘導をこまめに行い、伝え歩きしやすいように手すり、椅子、テーブルを配置し、自立に向けた支援を行っている。	入居者7名中、オムツは夜間2名のみで、昼間は、全員リハビリパンツでトイレに座って排泄している。ホーム内は歩きやすいようにし、野菜や水分の摂取を心掛け、排泄パターンを把握し、下剤や浣腸に頼らない排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	新鮮な地元の高原野菜をふんだんに使った食事を提供し十分な水分補給をしている。また、体操や歩行等の運動の機会も多く設け、便秘の予防に取り組んでいる。その結果、便秘の利用者は殆どいない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は利用者の希望や体調により、ゆったりと楽しく入ってもらうようにし、本人に沿った支援をしている。また入浴は利用者の昔話などを聞きリラックスしたコミュニケーションの場となっている。	入浴は、週2・3回入ることができるよう支援している。利用者の希望や体調を考え、安全にゆっくり入浴してもらえるよう支援している。また、入浴剤を入れて色や香りを楽しんだり、ゆずを入れて季節を感じたりすることがある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転を防止するために、日中はコーヒータイム等の休息を適宜入れながらレクリエーションや体操等に積極的に参加してもらい、夜間の安眠に繋げている。しかし、日中でも個々の体調に合わせて適宜臥床休息をとってもらうこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬が確実に服薬されるよう配膳時に準備し、確実に服用したことを見届けた上で介護日誌に服薬記録を記入している。薬の変更時には職員は利用者の経過観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じてお茶を配りや、食事の下ごしらえ・後片付けや掃除等、できることをしてもらっている。日常生活の中でレクリエーション、ゲーム、体操、音楽鑑賞等、気分転換になる楽しみ事を取り入れ、生活の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会は少なくなっているが、本人や家族の希望により、車でドライブ等出かけられるように支援している。また家族の協力を得て、外出の機会を作るように支援している。	リビングからベランダへ出ることができ、毎日でも外気に触れる機会がある。花見と紅葉の季節には、車でドライブをして楽しんだ。コロナ禍が終息すれば、買い物、喫茶、外食、行楽などに出かける予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的に、お金は所持してもらわないことにしているが、どうしても所持したい利用者には数千円程度所持してもらっていたこともある。買い物や欲しい物があるときは、施設で立て替え払いにて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、利用者の希望に応じて施設からダイヤルをして家族等に繋いでいる。手紙については、書ける利用者は少ないが、家族等から届いた場合は利用者に文面を朗読し、電話でその返事ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングには利用者全員が集まり食事ができる大きなテーブルが置かれ、ゆったり過ごせるようにしている。施設内には季節の花が飾られ、明るい雰囲気や醸し出される。常に一定の温度に保たれており、業務用の空気清浄機等を設置して空調管理している。浴室やトイレは広くゆったりしており清潔に保っている。南向きのベランダへは気軽に出入りでき、外気浴をすることができる。	リビングに、利用者全員が座り、お互いの顔が見える高さのオレンジのテーブルがある。コロナ禍であるので、業務用の空気清浄機を稼働させている。リビングからベランダに出ることができ、テーブル、椅子、パラソルもあって寛ぐことができる。事業所の各処に生花が生けられており、品よく季節感を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの大きなテーブルを囲んで、気の合った利用者が隣り合わせになって座ってもらっている。ベランダの入口にある白く大きな丸テーブルを囲んで、気の合った利用者同士でゆっくり過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッドと大きなクローゼットがあり、衣服や荷物を片付けることができる。ベッドの横にはサイドテーブルと椅子も備えており、プライベートな時間を過ごすことができる。また使い慣れた家具や調度品等を持ち込んだり懐かしい写真を壁に飾ったりして、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	居室入り口には、のれんが掛けられ、扉を開けても中が見えないように工夫されている。ベッド、クローゼット、サイドテーブル、椅子、エアコン、カーテンが設置されている。利用者が思い思いの空間を創ることができ、位牌を持参されている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には手すりを多く設置し、四点杖の利用も含め、自立して歩行できるよう安全な環境を整えている。また、車椅子の方も移乗時には手すり等を持って立位を保持してもらうなど、できるだけ残存能力を引き出せるようにして安全で自立した生活に繋がるよう工夫している。		